

第14回 マニフェスト大賞「最優秀コミュニケーション賞」受賞

優秀コミュニケーション戦略賞

「震災を風化させないための語り部」活動による地域活性化の取組

株式会社阿部長商店 南三陸ホテル観洋
(宮城県)



■取り組み概要とポイント

「語り部バス」をはじめとした「語り部」による地域の災害伝承・文化の伝承継続に取り組み、全国被災地語り部シンポジウム、東北被災地語り部フォーラム開催による地域間交流活性化モデルの構築を目指す。

宮城県南三陸町で宿泊・飲食業を営む南三陸ホテル観洋は、2011年の東日本大震災発災時より、公的な指定避難所ではなかったものの住民はじめ多くの人々を受け入れた。多く命を守る砦となる事と、復興の牽引役となる事を使命として感じながら、地元住民と従業員、ボランティア、医療・工事関係者、多くの人々が関わる避難所運営を行い、自助・共助の取り組みを率先して行った。その震災の経験と学びを教訓として伝える「語り部」活動と同じく2011年より現在まで継続している。ホテルが所有するバスで被災地を案内する『語り部バス』と、ホテル会議室での『震災講話』、ホテルが所有し震災伝承施設として認められた「高野会館」と「命のらせん階段」を案内する『震災遺構の保存と継承』など、訪れる方のニーズに応じた活動を展開。語り部バスの乗車人数は8年間で約35万人を越える。また、教育旅行も少中高大学まで積極的に受け入れ、国内だけで600校以上に震災学習を行った。

語り部はホテルスタッフの他、地元住人の語り部にも委託し、地元人材の能力開発と雇用創出にも繋がっている。災害伝承だけでなく、交流人口拡大や地域経済活性化など地域産業を守ることに尽力し、裾野の広い観光業の立場から継続的な情報発信を心がけている。それにより新しい交流が生まれ、語り部活動そのものが普遍的、持続可能な取り組みとして広がりを見せている。

「震災の記憶と教訓を伝えたい」「多くの方が交流する場を作りたい」という想いから、2015年に「全国被災地語り部シンポジウム in 東北」実行委員会を結成する。民間企業の枠に留まらず、様々な団体や人々と連携しながら全国に働きかけ、2016年3月に『第1回全国被災地語り部シンポジウム in 東北』を2日間に渡って開催した。2017年2月には第2回シンポジウムを兵庫県淡路市にて開催、2018年2月には再び南三陸町にて『第3回被災地語り部シンポジウム in 東北』を成功させた。出席者は開催を重ねる毎に350名から400名を超え、学ぶ機会や課題解決の場、新たな目標設定の場となった。

現在各地域で行われている語り部活動は、自然災害の伝承、防災・減災への備えのみならず、復興町づくりや地域文化・伝統の継承にも貢献する取り組みとなっている。全国各地の災害被害・経験は異なるため、被災地域の独自性を持った教訓を伝承し、それにより人々に地域から地域へ巡る学びの旅へと誘致し拡大していくため、世代・地域・国をも越えた広域なネットワークの構築に取り組んでいる。



■受賞メッセージ

未曾有の大災害と言われた東日本大震災より今日まで、「1000年に一度の災害は1000年に一度の学びの場」と考え、防災・減災・教訓の伝承に努めて参りました。この8年の間にも日本各地で自然災害が起こり、「語り部」が伝える過去の災害の教訓により救える命、防げる二次災害、復旧・復興に向けての取り組みなど、様々な課題が目に見える形となっております。地方の民間企業でありながら、こまめな取り組みを継続できたのは『自助・共助』の考えを胸に、ひとり一人がその課題に真摯に向き合っているからこそだと考えております。皆様に感謝致しますと共に、機会がございましたら是非現地へ足をお運び頂き、ご指導の程お願い申し上げます。

